

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2275500664		
法人名	有限会社 ホスপিタルサービス		
事業所名	グループホーム 相良の家		
所在地 (電話番号)	牧之原市新庄1792-1 (電 話) 0548-58-2100		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年3月6日		

【情報提供票より】(21年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	18人、非常勤 4 人、常勤換算 20.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有 (円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(2月 15日現在)

利用者人数	26 名	男性	1 名	女性	25 名
要介護1	10 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	座光寺医院、水野歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の母体は病院で、県域で複数のグループホームを運営している。3ユニットの大きなホームは、利用者も職員も地元の方が多く、地域との関わりもスムーズに行われている。職員は、料理作りなど様々な場面で利用者が活躍できる場を作ったり、利用者の声や思いに耳を傾け、得意とすることを引き出している。利用者一人ひとりに笑顔があり、職員の「ありがとう」の言葉かけからも、「ゆったりと楽しく 自由にありのまま 仲間と一緒に暮らす」という理念に沿った支援の様子が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を職員間で話し合い、改善の取り組みを行った。介護計画の見直しは、モニタリングを3ヶ月に1度行い、改善の必要がある場合は、会話の中から利用者の思いを汲み取ったり、家族と話し合い、職員間で意見を出し合いながら介護計画を変更している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で行った。項目によっては、それぞれの職員の理解や捉え方が違い、難しいところもあったが、そういった部分も明らかになり、やってみてよかったとの意見があった。今後は、評価項目に対する共通理解を深め、具体的な課題解決に全員で取り組まれることを期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長、行政職員、市議員、利用者家族、職員等の参加により開催している。災害対策に関する検討を行い、地域との協力体制について依頼をしたり、「自分が入所したい施設は？」等、参加者に率直な意見交換をしてもらい、ホームの運営やサービスに活かせるように努めている。今後は、地域包括支援センター職員、近隣住民の参加も予定している。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>話しやすい雰囲気作りを心がけ、訪問時に話を聞く他、運営推進会議に参加してもらったり、年に一度は交流会を開き、家族に意見を出してもらえるようにしている。訪問が少ない家族にも、電話や手紙で連絡を取り、不安や不満がないか常に把握できるように努めている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議には地区役員の参加もあり、協力体制ができています。利用者も職員も地域の方が多く、自然に交流が図られている。地域行事の情報も入り、老人会のサンサンクラブへ毎月出かけたり、公民館祭り、地域のまつりにも参加するなど日頃から地域との交流を大切にしている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくり、利用者のペースに合せた生活ができるよう、「ゆったり楽しく 自由にありのまま 仲間と一緒に暮らす」という理念を掲げている。利用者本位の生活を目指し、支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務室、トイレ等、目につきやすい所に表示し、常に理念を意識した支援を心がけている。共同生活の暮らしを守りながら、自由な生活が送れるよう、個々の対応に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣との関わりは多く、老人会の活動に毎月参加したり、祭りや公民館の行事にも出かけている。また、近くの中・高校生の体験学習を受け入れたり、利用者の友人がホームを訪れるなど、地域住民との交流が活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行った。職員の理解や捉え方が異なり、難しいところもあったが、そういった部分が明らかになり、やってみてよかったとの意見も出た。職員一人ひとりの評価に対する理解は十分でないと考えている。	○	全職員で意見を出し合いながら評価に対する理解を深め、具体的な課題改善の取り組みに繋がりたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回、区長、行政職員、市議員、利用者家族、職員等の参加により開催している。議題を工夫して参加者同士の意見交換を促し、運営に活かすようにしている。今後は地域包括支援センター職員や近隣住民の参加を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して、ホームの現状を理解してもらう他、書類提出時にも相談したり、アドバイスを受けたりしている。生活保護者の受け入れもあり、日常的な連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、請求書と一緒にお便りや行事の写真を送り、金銭管理の報告も行っている。緊急時や異常があった時は、電話にて連絡を取り、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は、面会時に時間をとって話を聞く機会を設けるようにしており、職員も話しやすい雰囲気づくりや、速やかな対応を心がけている。また、苦情処理担当者を配置し、入居時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間で行われており、利用者や職員は馴染みの関係ができていますのでダメージは少ないが、利用者の負担につながらないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回法人内研修があり、全員が参加している。また、業務を通じた学びを大切にしており、管理者は、経験や知識を機会を捉えて伝えるようにしている。外部研修への参加には、法人内に支援制度があるが、体制的な問題もあり、参加は少ない。	○	外部研修に職員が参加しやすいよう、年間を通じた研修計画を立てることに取り組まれない。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市事業者連絡協議会や市ケアマネ連絡協議会に加入し、他の事業所との交流を図っている。また、系列グループホームとの会議には、管理者が出席している。	○	職員同士が交流する場を作っていくことにも取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅を訪問して話を聞いたり、家族と一緒に見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらったり、必要に応じ、「おためし入所」を行っている。また、入所後も、他の利用者との良い関わりが持てるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に漬物をつけたり、大根切干を作って食材とするなど、利用者の経験や知恵を学ばせてもらっている。共に暮らし、喜びや悲しみを共感しながら信頼関係を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向に沿って、より良い生活が送れるように入所時や面会時に家族と共に話し合いを行っている。職員間でも新たな気づきがあった時は、ノートに記入し、他の職員と情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が、介護計画の基となるプランを作成し、ケース会議において、全職員で意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価して必要があれば介護計画の変更をしている。利用者に変化が生じた時は、その都度見直しを行っている。介護計画には家族の意見も書いていただけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や美容院の利用、老人会への参加、買い物等、利用者や家族の要望に応じた柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医をかかりつけ医とする利用者が多く、受診の際は職員が付き添い、バイタルチェック表や暮らしの記録等を持参し、適切な治療を受けられるよう支援している。受審結果は家族に報告している。家族が付き添う際も、記録帳等を持参してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前に看取りを行ったことがあるが、医療的な支援が必要になると、ホームでの対応は難しいと考えている。家族や医師、職員間で終末期の対応について話し合っている。	○	終末期、事業所としてどのような対応が可能か、利用者・家族の要望は何か、医療関係者間との連携の方法等、これまで話し合われてきたことを対応方針として定めていくことにも取り組まれない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の前で、本人に係る話をしないようにしたり、言葉かけにも注意し、プライバシーに配慮している。また、書類や記録についても、不用意な取り扱いに注意し、事務所で管理するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、利用者の意向や体調を見極めるようにしている。その上で、新聞紙でゴミ袋を折ったり、手芸の好きな方は雑巾を縫ったり、食事の準備や片付け等その方の希望や得意とすることができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者より取り寄せているが、利用者の希望を追加したり、時には手作りの大根切干の煮物を提供するなど柔軟に対応している。利用者と職員と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週5日、入浴日がある。時間等も決められているが、なるべく要望に沿えるように努めている。入浴拒否のある方に関しても、できるだけ入ってもらえるよう、タイミングを見計らって声をかけるなど工夫したり、菖蒲湯等も取り入れている。入浴の準備も自分で行えるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ好きの利用者が通っていたお店のご好意で、クリスマス会をやらせてもらったり、老人会のクラブに参加したり、利用者の自宅を訪問するなどの楽しみごとや、畑仕事や保存食作りなど張り合いのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材や個人の買い物、散歩や気分転換のためのドライブ等、外に出かける機会を積極的に作り、外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を十分理解しているが、利用者が急に外へ飛び出してしまうたり、出入り口近くに階段がある2ユニットについては、安全面を考慮し施錠している。	○	施錠による弊害は理解されているので、今後も、職員の見守りや他のユニットとの連携を図るなど、鍵をかけない工夫に取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行っており、消防署の指示事項は、改善に向け取り組んでいる。運営推進会議でも、地域との協力体制について働きかけており、今後、地域との連携で防災訓練を行う予定になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、記録している。栄養バランス、必要カロリーは、食材宅配会社に依頼し、確保できるように配慮している。利用者の希望に応じて買い物に出かけたり、外食の機会も作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間には、季節に合わせた飾り、写真や花が飾られている。共用空間には、ソファやベンチを配置し、利用者は思い思いの場所でゆったり過ごされている。床の段差を無くし、必要なところに手すりを取り付けるなど安全面にも配慮し、落ち着いた雰囲気作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、馴染みの小物、好みのものが持ち込まれ、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。		